

年度内に新基準申請へ

浜岡3、4 16年9月までに新基準対策

中部電力は二十五日、新規規制基準を踏まえた追加対策を取りまとめ、4号機は一五年九月末、3号機は一六年九月末の完工を目標に実施することを発表した。同社では、一三年度中の早い時期に原子力規制委員会への適合性申請ができるよう必要な準備を整えたいとしている。

浜岡3、4号機は、一年五月に政府からの運転停止要請を受け、津波に対する安全性向上対策を実施している。

また、同社は合わせて、浜岡3、4号機の地震対策に向けた工事計画も取りまとめた。それによる、内閣府の南海トラフ巨大地震検討会の想定モデルなどについて、

エネルギー移送計測

東北大学 閉じ込め悪化原因究明

東北大学大学院工学研究科の研究グループは十日、核融合を目指すプラズマの閉じ込め性能の悪化が、電子温度の傾き空間勾配)によって高周波揺らぎが発生し、その高周波揺らぎから低周波揺らぎへエネルギーが移ることによって起ることを突き止め、そのメカニズムを明らかにしたことを発表した。

金子俊郎教授、島山力三名誉教授の研究グループは、これまで低周波不

ENEN設立

十周年迎える EMSNE修了式

欧州教育ネットワーク連合(ENEN)の原子力工学修士号(EMSNE)授与式が十九日にIAEA総会のサイドイベントとして行われ、欧州出身の生徒十三人が修了証を手渡された(写真)。

同修了証は過去八年で、百九人の欧州の若者に授与されている。

A・ベチコフIAEA事務局長が開会挨拶を行い、ENENがアジアやラテンアメリカなど地域の教育ネットワークにとつてもベスト・プラクティスのモデルとなってきたことを評価した。

ENENは二〇一三年九月二十二日、設立十周年を迎えた。

IAEA総会と

INRA出席

原子力規制委員会の田中俊一委員長(写真)は、IAEA総会とINRA出席のため、十六日にIAEA総会全体会議に出席し、IAEA総会とINRAの両方に参加した。田中委員長は、IAEA総会全体会議で、日本政府主催によるIAEA総会とINRAの両方に参加した。田中委員長は、IAEA総会全体会議で、日本政府主催によるIAEA総会とINRAの両方に参加した。

ストロンチウム迅速分析

福島大学 プラズマ装置で

福島大学は十八日、パーキンエルマー ジャパンや日本原子力研究開発機構、海洋研究開発機構との合同チームで、放射線物質のひとつであるストロンチウム90(90Sr)を迅速に分析できる手法を開発したと発表した。

90Srはベータ線のみを

低線量被ばくシ

ンポジウム開催

線量被ばくを開催する。甲狀腺医学が専門の長瀧重信氏(長崎大学名誉教授)による特別講演の他、消費者団体、メディア、医療の各分野から有識者を招いて座談会を行う。放射線に関する疑問にも用意。

日本原子力文化振興財団は十月二十五日、東京有楽町朝日ホールで、シンポジウム「考えよう低線量被ばく」を開催する。

広範な分野から事故分析

新規規制基準ふまへ対策

日本工学アカデミーは六日、学会館(東京千代田区)で、「福島原発事故の現状は」と題する公開講演会を開催した(写真)。

講演会では、東京大学教授の越塚誠一教授から過酷事故の経過と現場対処について、北海道大学の奈良林直教授から事故の教訓と新規規制基準を踏まえた安全対策について、それぞれ発表があった。

講演会では、東京大学教授の越塚誠一教授から過酷事故の経過と現場対処について、北海道大学の奈良林直教授から事故の教訓と新規規制基準を踏まえた安全対策について、それぞれ発表があった。

アジア最大の

分析機器展示会

JASIS Asia最大規模の分析機器・科学機器関連の展示会であるJASIS (Japan Analytical & Scientific Instruments Show)二〇一三年が四日から六日までの三日間、千葉県の幕張メッセ国際展示場で開催され、一万三千三十四人が来場した(写真)。

四百社を超える国内外の分析関連メーカーが展示し、それぞれX線分析などの最新技術を発表したほか、「メディアカルインベシジョン」では、研究者や関係者による基調講演やパネルディスカッション、今後先端診断市場で活用が期待される最先端の技術を持つ企業が行われた。

大島規制委員会

ど迎え年次大会

核物質管理学会(INMN)日本支部は十月二十四日と二十五日、第三十四回年次大会を東京の学会館で開催する。

初日は大島三原子力規制委員会委員などが講演を行い、二日目はテクニカルセッションとなる。

申し込み締め切りは十月十一日だが、定員の百二十名に達したところから、参加費は一般学会員・賛助会員が八千円、非学会員が一万二千円、学生(社会人学生を除く)は無料で、十二月末までに振り込み。問い合わせは核物質管理学会日本支部事務局(電話03-5816-7752/メール:innmj@inncc.or.jp)へ。

四地域が協力協定に署名

各国教育ネット ISIS 炉実験など紹介も

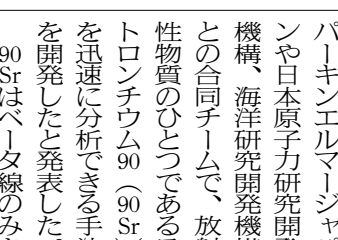


IAEAの教育ネットワークのサポート役や産業界との関係、新しく導入されたIAEAウェブサイトのeラーニングについて紹介されたほか、英国のパルス中性子源実験施設ISIS研究炉で行われた実験の様子が上映された。

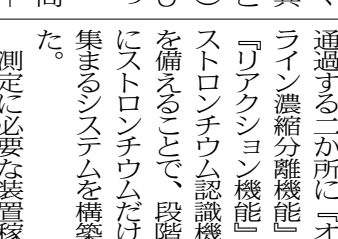
セッションの最後には、IAEAに設立された各地域の原子力教育ネットワークである、ANENT(アジア)、FRANEST(アフリカ)、LANENT(ラテンアメリカ)、ENEN(ヨーロッパ)の各代表が協力協定に署名した(写真)。



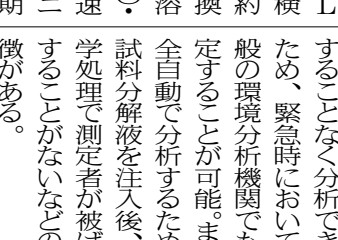
セセッションの最後には、IAEAに設立された各地域の原子力教育ネットワークである、ANENT(アジア)、FRANEST(アフリカ)、LANENT(ラテンアメリカ)、ENEN(ヨーロッパ)の各代表が協力協定に署名した(写真)。



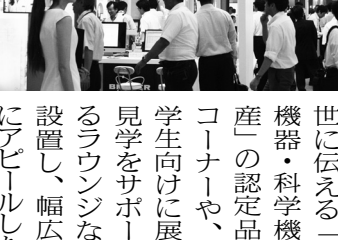
セセッションの最後には、IAEAに設立された各地域の原子力教育ネットワークである、ANENT(アジア)、FRANEST(アフリカ)、LANENT(ラテンアメリカ)、ENEN(ヨーロッパ)の各代表が協力協定に署名した(写真)。



セセッションの最後には、IAEAに設立された各地域の原子力教育ネットワークである、ANENT(アジア)、FRANEST(アフリカ)、LANENT(ラテンアメリカ)、ENEN(ヨーロッパ)の各代表が協力協定に署名した(写真)。



セセッションの最後には、IAEAに設立された各地域の原子力教育ネットワークである、ANENT(アジア)、FRANEST(アフリカ)、LANENT(ラテンアメリカ)、ENEN(ヨーロッパ)の各代表が協力協定に署名した(写真)。



セセッションの最後には、IAEAに設立された各地域の原子力教育ネットワークである、ANENT(アジア)、FRANEST(アフリカ)、LANENT(ラテンアメリカ)、ENEN(ヨーロッパ)の各代表が協力協定に署名した(写真)。